

【R6年頭訓示】

R6-1-11

矢野弘典

基本に立って一步一步

明けましておめでとうございます。年末年始はご家族と共にゆっくりされましたか。お陰様で、私も英気を養うことができました。

お屠蘇気分が飛んだのが、元日の能登半島大地震、二日の飛行機衝突事故でした。波乱の年明けとなりましたが、皆さまとともに心をつにして、何が起こってもめげず、遠い先を見ながら、基本に立って一步一步、当面する課題の解決に向かいたいと思います。宜しく願います。

今年は辰年です。龍は古代中国が生んだ伝説上の動物ですが、『易経』という本はその龍の生涯を、人の一生になぞらえ、6段階に分けて大変おもしろく描いています。(これは干支とは関係ありません、念のため)。幼少期から青年・壮年期をへて晩年に至る6段階で、それぞれの成長段階での心得を説いているのです。そこで、修業時代にも一人前になった時にも、一貫して「大人に学べ」と言っている点に私は注目しました。大人

とは立派な人。若い未熟な時に、上司・先輩・親に学ぶのは分かりますが、壮年でリーダーとなり、人にも頼りにされるようになった時にも「大人に学べ」とは、どういう意味でしょうか。これは、天狗になるな、謙虚に、広く組織を支えてくれる人々の声を聞け、という意味に私は取りました。「お客さまと共に歩む」という、私たちの経営理念にも一致すると考えました。

さて、今年の課題についてお話する前に、昨年 of 十大ニュースを振り返ってみます。要点のみを申し上げます。

《十大ニュース》

1, 未来への挑戦

- (1) センター・三公社一体化プロジェクトが本格化。5つのタスクフォースが動き、地に足のついた具体策の展開開始。
- (2) (道路)の取組。とりわけ、静浦有料道路の事業認可取得、同道路と伊豆中央道・修善寺道路の一体的運営、償還期間の延長、三道路へのETC導入の決定など。

2, お客様サービスの充実

- (1) (道路)伊豆SLの料金所再編成に着手、ETCXの利用拡大策の実行、浜名湖新橋・箱根SLでの電子マネー決済の運用開始。

- (2) (住宅)「ふれあい講座」の再開、「高齢者訪問サポート」、「外国人訪問サポート」、書類の多言語化の実施。

3, 地域社会への貢献

- (1) (用地)伊豆市日向公園、長泉町鮎壺公園の工事着手、島田金谷BP菊川ICと志太中央幹線の供用開始。
- (2) (道路)他社と協働したスタンプラリー実施。
- (3) (住宅)居場所づくりの再開、防災体験訓練の共同開催、移動販売の積極誘致。

4, 健全経営の推進

- (1) R4年度決算で、(住宅)20期連続黒字達成。
- (2) インフラ技術支援担当は、R4年度、過去最高の22件受注。
- (3) 箱根SLでの新事業、民間企業への貸切利用を開始。

5, 計画的な事業推進

- (1) 両スカイラインで新グランドデザイン後期5カ年計画推進。
- (2) 地籍調査で、川根本町は7期連続支援、長泉町から初受注。

6, 安全安心、社会・経済の変化、様々なリスクへの対応

- (1) (住宅)県営住宅懇話会に参加、入居要件緩和を提言。
- (2) インボイス制度に向け準備。10月から支障なくスタート。

(3) (土地)全土公協関東東海ブロック会議を対面開催、意見交換。

7, 働き方改革の推進

(1) 在宅勤務やリモート会議など多様な働き方の継続推進。

(2) 業務のデジタル化により職員の負担軽減。

8, デジタル化、業務の効率化・事務改善

(1) 個人スマホからもスケジュールや掲示板等の閲覧可能化。

(2) 電子決裁の試行開始。

(3) フリーWiFiの設置。

(4) センター・三公社の会計伝票様式を統一、伝票枚数大幅削減。

9, 執行体制の整備、職員のスキルアップ

(1) 専務理事・常務理事が二人交代、4月から新体制スタート。

(2) センター新評議員3名が7月に就任。

(3) 総務部の嘱託員全員がセンターに所属。

(4) (道路)土木職と(住宅)建築職の相互併任。相互支援。

(5) 決算説明会で3公社の業務概要説明、現地で学ぶ研修会(初・中級)の拡充。

(6) (土地)27年ぶり正規職員採用、(道路)職員を県に研修派遣。

10, 戦略的広報の展開

- (1) センターシンボルマークの記章・バッジの作成。
- (2) 広報研修会の初開催。
- (3) 副市長・副町長研修会でセンター・三公社の活用を説明。
- (4) センターホームページの全面的リニューアル。
(土地)(住宅)ホームページに新たなバナーを掲載。
- (5) (道路)写真コンテスト入賞作品の作品展やカレンダーの作成。

十大ニュースは、皆さまの汗の結晶です。振り返って、随分色々なことがありました。皆さまのご尽力に、心から感謝申し上げます。現在進行形のものが数多くあります。その流れは間違いなく良い方向に向かっておりますので、今年も力を合わせ、共に頑張ってください。

経営の基本は次の三点です。基本はいつも変わりません。

- 1, 「お客様とともに歩む」経営理念の堅持
- 2, 現場主義の徹底と健全経営の推進
- 3, センターの一体化促進

これらは三つとも深く関連しあっています。昨年の表彰案件は、全て現場

のニーズを見極めた解決策でした。「現場に立って考え行動する」現場主義と、「現場で問題を解決する」現場力が十分に発揮されています。現場で何が起きて、どういう変化が起きているかを見極めることが重要です。ここに、当センターと三公社の本当の強みがある、と私は深く感銘し心強く思いました。こうした提案が実り、お客様に喜んで頂くことによって、経営理念が絵空事ではなくなるのです。健全経営については数字も大事ですが、一番大切なのは信用です。信用さえあれば、一時の金銭的な損失は必ず挽回できますが、信用を失ってはダメ、信用が健全経営の大元なのです。

今年も常に経営の基本に立ち、環境の変化には柔軟に対応しつつ、計画を一步一步実行する一年にしましょう。

当面の重点課題は、次の5項目です。

- 1, センター・公社一体化の加速。
- 2, R6年度予算・中期計画の策定。
- 3, 諸課題への挑戦と新サービスの検討。

(土地) 仕事量の確保、センター地籍調査推進

(道路) 新グランドデザインの推進、ETC導入準備、ETCX

利用率拡大、電子マネーの普及、伊豆SL料金所再編成、

センター発注者支援の東・中部への拡大

(住宅)市町営住宅の管理受託拡大、高齢者・外国人への

配慮、センター発注者支援業務への参入検討

4, 市町との連携強化。

5, デジタル化の推進と新しい働き方の定着

センター・公社の一体化は、組織間の壁をなくし、相互に協力し、助け合い、組織の総合力を高め、県民へのサービスを充実し、県民に喜んで頂くことによって、組織全体としての信用を高めることが目的です。一体化計画は、センター・公社の生き残り戦略と私は考えています。皆さまに共に考え、行動して頂きたいと願う所以です。

他の公社が解散するのは何故でしょうか。一つは、健全経営を失ったからです。赤字続き、不良資産を抱える、信用が失墜する、これでは経営は成り立ちません。もう一つは、一県にいくつかある公社が旧態依然で、互いの協力関係がないためではないかと私は想像します。仕事が減った所は、仕事のある所の手伝いをしたらいいのです。そして、互いに協力し、お客様に対するサービスを高めることです。それがあれば決して組織は

滅びません。自分さえよければ良いでは、ダメです。そこが非常に大事な点です。指示待ちではなく、自ら考える。特に幹部の皆さんには肝に銘じていただきたいと思います。ラグビーには、“One for All, All for One”という素晴らしい精神があります。これは組織の経営にも当てはまるものだと思います。

終わりにあたり、いつも同じで恐縮ですが、ご家族ともども心身の健康に留意して下さい。そして、充実した一年と致しましょう。

“明るく、元気で、仲よく、厳しく！”

以上